

8章 ^{かた え} 片江校区



8章 片江校区

1.阿蘇神社

【所在地】城南区片江2丁目22

①阿蘇神社

【境内祠堂等】②^{こがらす}小鳥神社、③社日さま、④庚申、⑤猿田彦塞神、⑥^{がどう}河童さま、⑦「日露戦役之紀念」碑、⑧「片江数へ唄」碑、ほか説明板*1、鳥居、石灯籠（常夜灯）1基、狛犬1対、注連懸け石1対、幟竿台、手洗鉢、潮井台など多数（※片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会を参照）

【碑文等】

*1 説明板

阿蘇神社

祭神 武岩龍命

由緒

阿蘇神社は、武岩龍命を奉斎し、神社神道に従って、祭祀を行い、祭神の神徳をひろめ、本神社を崇敬する者及び神社神道を信奉する者を教化育成し、社会の福祉に寄与することを目的とし、五穀豊饒、家内安全、交通安全、商売繁栄等の神様として祭られている。

造営記録

元禄二年（一六八九）己中春吉祥日神殿宝殿□惟

元文三戊午年（一七三八）禮堂上棟

慶応三年八月（一八六七）拝殿・渡殿・御供処

平成二十年十月（二〇〇八）再建 社殿・手水

舎・社務所新築 玉垣

また、『新風土記 かたえ』には由緒をはじめ、保有する備品、年中行事や境内の小祠などが記述されている。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.22-32



阿蘇神社（2013.2.21 撮影）

②^{こがらす}小鳥神社

【概要】阿蘇神社本殿後方の石段上に、石造りの祠が祀られている。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.24



小鳥神社（2013.2.21 撮影）

③社日さま

【概要】『新風土記 かたえ』によると、「本殿の西岸の石段上にある。自然石で無文字。元は片江字^{なつた}片田（現在の南片江3丁目付近）小浦池の南方の山上にあったもの。それを1876（明治9）年の明治政府の政令「各所に散在する小社・庚申さまなどは、すべて氏神の境内に合祀すべし」により、1879～1880（明治12～13）年ごろ、当境内に移設された」（片江校区郷土史研究会編 2003：24）とのこと。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.24、p.52-53



社日さま（2013.2.21 撮影）

④庚申

【概要】『新風土記 かたえ』によると、もとは字畠中（現在の片江3丁目付近）の路傍に祀られていたが、境内の「社日さま」と同様に阿蘇神社内に集められたものだという（片江校区郷土史研究会編 2003：24）

【銘文】[表] 庚申、[裏] 安永戊戌四月（※「安永戊戌」は、安永七年にあたる）

【参考文献】

片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かた

え』片江校区郷土史研究会 p.24、p.51

福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 (p.49、p.109 ページ、該当NO.196 城・5)



中央が④庚申、左隣りは⑤猿田彦塞神 (2013.2.21 撮影)

⑤猿田彦塞神

【概要】『新風土記 かたえ』によると、「もとは、村社の辻からの入口の北側にあった」が、境内の「社日さま」や「庚申塔」と同様に阿蘇神社内に集められたものだという (片江校区郷土史研究会編 2003 : 24・25)

【銘文】[表] 猿田彦塞神、[裏面] 慶應四戊辰歳仲秋吉日、[左側面] 辻口中建之

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.24・25、p.52

福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 (p.49、p.109、該当NO.197 城・6)



中央が⑤猿田彦塞神、右隣りは④庚申 (2013.2.21 撮影)

⑥河童さま

【概要】阿蘇神社への参道の石段下に祀られている。石の祠の中には、丸い石が祀られている。以下、『新風土記 かたえ』からの引用。

「地元では、“ガンタロウ=河太郎=さま”と呼び習わしている。河童を祭っている。本社石段

下、道向かいにある石造りの小社で、石垣上に建造。右側に「奉献」、左側に「明治二十四年(1891)1月吉辰 祭主 子供中 世話人 有志中」と彫られている。“さま”と敬称がつけられていることから、人助けをしてくれたか、あるいは、水に関するご利益を願っての、ありがたい“河童さま”を祭ったと思われる」(片江郷土史研究会編 1993 : 25)。

【銘文】[右側面] 奉献、[左側面] 明治二十四年一月吉辰 祭主 子供中 世話人 有志中

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.25、p.51



河童さま (2013.2.21 撮影)

⑦「日露戦役之紀念」碑

【概要】社殿に向かって左側付近にある。

【銘文】[表] 明治三十八年九月良辰 ^{りょうしん} 建設

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.26



「日露戦役之紀念」碑。右側の建物が阿蘇神社々殿 (2013.2.21 撮影)

⑧「片江数へ唄」碑

【概要】「日露戦役之紀念」碑の背後にある。『新風土記 かたえ』によると、高木一雄氏の作によるものだという。同氏は 1863 (文久三) 年生まれで、1929 (昭和四) 年当時の早良郡樋井川村が福岡市に合併した際の村長となり、1952 (昭和 27) 年に没した人物 (片江校区郷土史研究会

編 2003 : 26-27、50)。

【銘文】

〔表〕

一ツトヤ

日井郷片江は 草ヶ江の^{みぎわ}水際でありしに 依
る名ぞへ ササ 依る名ぞへ

二ツトヤ

麓に多き 古塚は 村祖の墓なり 壊すなよ
ササ 壊すなよ

三ツトヤ

宮は武岩龍の神 本社は肥後にて 阿蘇神社
ササ阿蘇神社

四ツトヤ

四年四月の 一日は 呼び名昭和で 市合併
ササ 市合併

五ツトヤ

幾千年の 土地なるか タタラの跡には 合
せ甕 ササ合せ甕

六ツトヤ

昔は鶴雁 田に群れて 山には妻恋う 鹿の
声 ササ鹿の声

七ツトヤ

何でも昔は 唄仕事 今時や機械で 楽なも
の ササ 楽なもの

八ツトヤ

山は村山 野も多く 薪^{まき}は買わずに 済まし
里 ササ 済まし里

九ツトヤ

此所は藩主の 御獵地で 勇ましかりしよ
その御狩 ササ その御狩

十トヤ

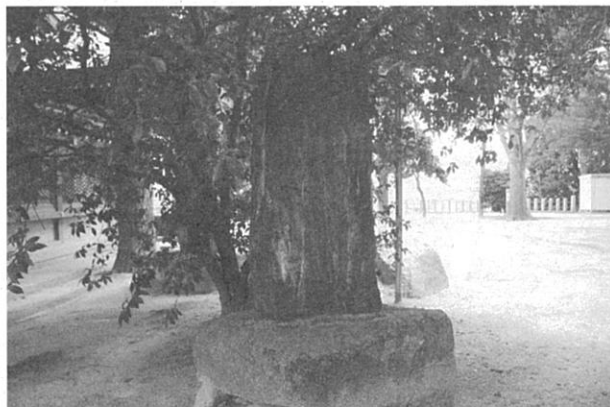
土地は陽気で 水清し 高は千石^{せんごく} 家百戸
ササ家百戸

〔裏〕

高木翁 此頃 片江の由来に因み 数へ唄を
作られければ 之を請うて石に刻み 永く記念
せんとて 本区(片江)に謀り 多数の賛成を得
て建つることとはなりぬ

昭和丁丑年桜月 片江 主婦会 女子青年会」
(※昭和丁丑年=昭和十二、1937年)

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新
風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.26-27、
p.50



「片江数へ唄」碑。写真左後方に社殿(2013.2.21撮影)

2.江陽館^{こうようかん}

【所在地】城南区片江2丁目17-10

【概要】『新風土記 かたえ』によると、「江陽館は、当時の早良郡樋井川村片江区の公会協議所として、1902(明治三十五)年10月に建築された。1900(明治三十三年)年、修猷館が大名町から西新町に移転して、不要となった大名町校舎を購入し復元したものである」(片江校区郷土史会編2003:110)という。なお、「江陽館」という名前は黒田長成^{ながしげ}によって命名されたという。2001(平成十三)年11月16日には、江陽館落成百周年記念式典が多数の出席者をもって行われたが、翌2002(平成十四)年には老朽化のため建て替えられることになり、7月31日に解体された。現在の江陽館は2003年に完成した(片江郷土史研究会編2003:110-114)。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.110-114



江陽館(2013.2.21撮影)

3.薬師堂

【所在地】城南区片江2丁目16

【概要】堂内には薬師など仏像数体が安置されている。『新風土記 かたえ』によると、「もともと『仏門』という小字名のあたりの道端にお祭りしてあったが、堂宇も荒れ果てていたので、粗末に

なつてはならないと現在地に移し変えた。昔の「早良郡八十八番札所の第十八番札所」と言われている。最初のお堂が、いつごろ建てられたのかは不明だが、現在のお堂は1980（昭和55）年に建てられた。現在では上小多羅^{おだら}の10数戸で毎月の8日に清掃をし、毎年4月21日にお祭り（おこもり）をしながらお守りをしている」（片江郷土史研究会編2003：54）とある。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.54



薬師堂（2013.2.21 撮影）

4. 稲荷大明神

【所在地】城南区片江2丁目2-4（個人敷地内）

【概要】付近を通る水道みち（※7章南片江の「3. 水道みち」参照）の東側、住宅地にあるアパートの一角に稲荷大明神が祀られている。土地の持ち主であり祀っている人によると、元々は現在祀られている場所よりも数メートルほど西側にあったが、2011年の暮れころアパートを新築した際に移動させたという。以前は、クロガネモチの大木があったが、これもアパートを建築した際に西区の神社へ移植された。その際には、この神社の宮司に相談した上で移植したという。以前は、地域の人が集まって、おこもりをすることもあったという。

また『新風土記 かたえ』には、祀っている人の話として「先祖が原因不明の発熱で、お医者さんでも治しようがないと言われ、ワラをもつかむ気持ちで北片江の祈祷師のところにお参りして『お告げ』のとおりにしたところ、みるみるうちに全快したので、そのお礼に稲荷大明神を建ててお祭りした」という由緒が載せられている（片江校区郷土史研究会編2003：54）。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.53-54



稲荷大明神。鳥居と奥に祠（2013.3.2 撮影）

5. 片江辻地藏堂

【所在地】城南区片江1丁目19

【概要】堂内には地藏数体が祀られている。片江風土記によると、「いつの建築かは不明だが、亡くなった人々を埋葬し、地藏堂を建てたのが由来と言われる」（片江校区郷土史研究会編2003：53）という。例年4月21日には、「おしゃか様祭り」、7月24日には「おじぞう様祭り」が行われているという（前掲書2003：53）境内には、保存樹としてムクノキ（城113号）、クロガネモチ（城025）がある。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.53



片江辻地藏堂（2013.2.21 撮影）

6. 片江天神社

【所在地】城南区片江3丁目8

【概要】祭神は菅原道真を祀る。例年4月25日に祭礼が行われている。以下、地域の自治協議会の記事より抜粋。

「福岡の民話、「片江村の一本杉」の舞台にもなった「片江天神社」は、かつて、裏ン谷池（現浦谷公園の南方）の西側に、天満宮（菅原道真神）として祀られていましたが、明治13年頃、古社殿ごと現在の地に移されました。この辺り一帯は、もともと字名で天神と呼ばれ、自然神の天神が祀られていた丘陵地ですが、菅原神が、つまりは天

神様なので、合祀というよりは同一神として、名称も天神社として祀られ、現在にいたっています」(片江校区自治協議会『片江自治協ニュース かけはし』2013年1月15日 No.93)。

【参考文献】

片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.36・38
片江校区自治協議会「校区探訪 第7回 片江天神社(片江3丁目)」『片江自治協ニュース かけはし』2013年1月15日 No.93 片江校区自治協議会



片江天神社の社殿 (2013.2.21 撮影)

7. 「区画整理事業完成 記念樹桜十一本」標柱(浦谷公園内)

【所在地】城南区片江3丁目27浦谷公園内(トイレ前付近)

【概要】碑文から1986(昭和六十一)年の土地区画整理の際に立てられたことがわかる。神松寺北公園内にあるものとほぼ同じである。

【碑文等】

〔表〕区画整理事業完成 記念樹桜十一本

〔裏〕昭和六十一年三月 片江地区土地区画整理組合



「区画整理事業完成記念樹桜十一本」標柱(2012.10.24 撮影)

8. 「片江公民館創立十周年記念」標柱

【所在地】城南区片江5丁目35・20(片江公民館)

【概要】片江公民館の入り口付近にある。標柱のそばに掲示板がある。

【碑文等】

〔表〕片江公民館創立十周年記念

〔裏〕平成二年十一月十日



「片江公民館創立十周年記念」標柱。中央左下に石柱、中央に掲示板。左後方に片江公民館がある(2013年3月2日撮影)

9. 親水公園(西の堤池)のモニュメント

【所在地】西の堤池(城南市民センター東側)

①緑化フェア記念事業 整備完成記念モニュメント

【概要】親水公園(西の堤池)の南西、あずま屋の近くにある。銘文から2010(平成22)年3月に設置されたことがわかる。表にはモニュメント設置の経緯が書かれているほか、モニュメントに対して右側面には、城南区のシンボルキャラクターの「油山の妖精ニッコりん」と「ワルもん」が描かれている。

【碑文等】

〔表〕

緑化フェア記念事業 整備完成記念モニュメント(平成22年3月) 西の堤池(にしのおつみいけ)～四季を楽しむことのできる憩いの空間へ～

城南区の都市緑化や花と緑のネットワークの普及、及び、歩くことが楽しくなるまちづくりのシンボルとして、「緑化フェア記念事業」を活用し、住民によるワークショップを経て、西の堤池を「四季を楽しむことのできる憩いの空間へ」とのコンセプトで整備しました。

(主な整備内容)

- ①サクラを中心とした樹木の植栽
- ②親水性向上(水の浄化、じゃぶじゃぶ池の再整備)
- ③記念モニュメントの設置
(校区のサクラについて)
植栽する11本のサクラを、区内11校区の「校区

のサクラ」とすることで、各校区で区内の「花と緑のネットワークづくり」の意識を高めるとともに、西の堤池を身近に感じ愛着を深める契機としています。

「緑化フェア記念事業」について

平成 17 年度に開催した「第 22 回全国都市緑化ふくおかフェア」では、開催の準備段階から会期中全般にわたり、市民や企業のボランティアとの協働による取り組みが数多く実施されました。

この緑化フェアを契機に、市民の皆さんの緑化意識が高まり、市内各所で活動団体による自主的な緑化活動が盛んになっています。

福岡市ではこの共同の取り組みを、緑化フェア開催の大きな成果として、今後の都市緑化推進に継承し、広げていきます。

この西の堤池も、「全国都市緑化ふくおかフェア」の収益金で創設した「福岡しみどりの基金」を財源として、将来にわたって都市緑化のシンボルとなるよう整備されました。

福岡市 住宅都市局・城南区 11 校区・城南区役所・農林水産局



緑化フェア記念事業 整備完成記念モニュメント。奥が西の堤池（2013.2.20 撮影）



モニュメント側面。城南区シンボルキャラクターのニッコリンとワルモン（2013.2.20 撮影）

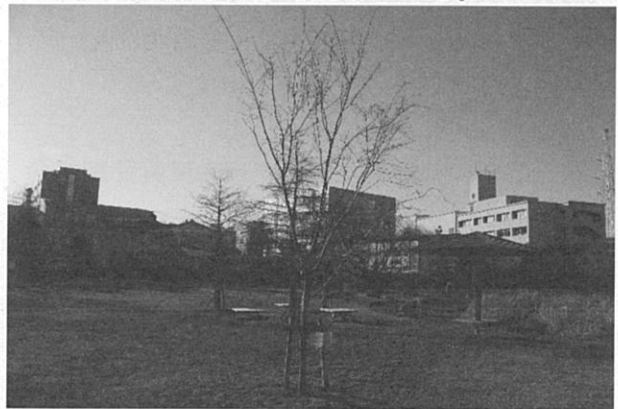
②城南区 11 校区のサクラ

【概要】城南区 11 の校区ごとにサクラの木が

決められており、親水公園を周回する遊歩道上に植樹されている。各校区のサクラは以下の通り（※「①緑化フェア記念事業 整備完成記念モニュメント」の記載をもとに作成）。

鳥飼校区	: ギョイコウ
別府校区	: カンヒザクラ
田島校区	: カンザクラ
長尾校区	: ジュウガツザクラ
堤丘校区	: シダレザクラ
堤校区	: エドヒガン
南片江校区	: カンザクラ
片江校区	: ジュウガツザクラ
金山校区	: ベニヤマザクラ
七隈校区	: シダレザクラ
城南校区	: シダレザクラ

それぞれのサクラの木の前には、「平成 22 年 3 月に『緑化フェア記念事業』において植樹されました」と説明板があり、また「①緑化フェア記念事業 整備完成記念モニュメント」にも同様の経緯で植樹された由が記載されている。

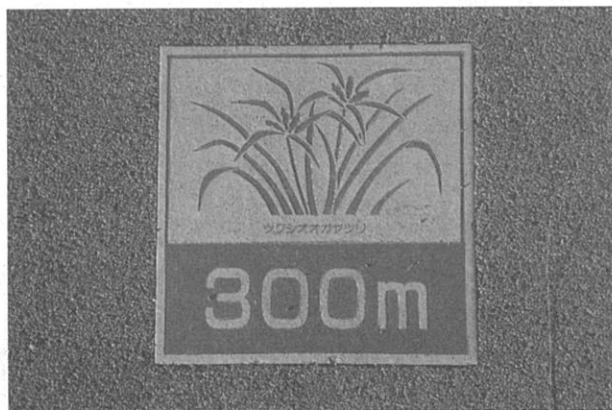


片江校区のサクラ（ジュウガツザクラ、2013.2.20 撮影）

③ツクシオオガヤツリのレリーフ

【概要】親水公園を周回する散策路（「健康さわやかロード」、一周 700m）の上に 100m ごとに時計回りで計 6 枚がはめ込まれている。始点は、西の堤池の南西部の「健康さわやかロード」の標識付近。ツクシオオガヤツリは、カヤツリグサ科カヤツリグサ属の多年草の一種であり、1906（明治三十九）年に福岡城のお堀で最初に発見された。日本内での生息範囲はほとんど福岡市内に限られている。福岡城の堀のほか、城南区、東区、南区、早良区のため池で発見されており、城南区内では親水公園の一部や堤丘校区の三尾池公園で確認することができる。

【参照 URL】福岡市教育委員会 文化財部 文化財整備課ホームページ
<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/property/detail.php?ID=101092> 2012.12.21 閲覧



300m 地点のもの。他も絵柄は同じ。〇〇m だけが異なる (2013.2.20 撮影)

10. 市民センター前時計塔「はばたき」

【所在地】城南区片江 5 丁目 3・25 (城南市民センター敷地内)

【概要】城南市民センター駐車場への入口付近 (福大側) に建つ。台座裏側の碑文から、1986 (昭和六十一) 年に、第三回緑の都市賞内閣総理大臣賞の受賞を記念して建てられたものとわかる。

【碑文等】

〔台座裏〕

はばたき

第三回緑の都市賞 内閣総理大臣賞受賞記念
昭和六十一年一月

福岡市長 進藤一馬



「はばたき」。写真右奥方面に城南市民センター (2013.2.21 撮影)

11. 老松神社

【所在地】城南区神松寺 1 丁目 4

①老松神社

【概要】『新風土記 かたえ』によると、「平安時代、菅原道真公が太宰府へ配流されたとき、この

地に立ち寄られたとの言い伝えがある。南谷聖夷和尚によって開基された醫徳山神松寺は、老松神社の祭神である天神の「神」と老松の「松」とをとって、「神松寺」としたという由来があり、さらにこれが地名ともなった。

1538 (天文 7) 年、太宰大貳の大内義隆が、この神松寺を太宰府の祈願所とした「太宰宣」という有名な古文書があり、福岡県神社誌にも「由緒付神社」となっている。

こうした由緒から、老松神社に参拝すれば、太宰府天満宮に参拝したのと同じご加護があると言われ、信仰を集めてきた」(片江校区郷土史研究会編 2003 : 34) とある。

【境内祠堂等】

②五穀神、③猿田彦大神、④石造物のほか、説明板*1、旗竿台 1 対、鳥居など多数。

【碑文等】

*1 説明板

老松神社

祭神 菅原神 (天神)、老松の両神

由緒 平安時代菅原道真が左遷され、京都から太宰府へ赴く途中、この地に立ち寄られたと伝えられる。鎮座年代は不詳である。現在は薬師堂を残すのみとなっているが、醫徳山神松寺が博多承天寺の開祖聖一國師五代の法孫南谷聖夷和尚によって永享年中 (西暦一四二九～一四四〇年) に開基され、神松寺の寺号は天神の「神」と老松の「松」に由来すると云われている。従って、老松神社の創立はそれより更に古代に遡る。

地名も神松寺と称することとなった。

天文七年 (西暦一五三八) 七月三日太宰大貳大内義隆が太宰宣を下し、神松寺を太宰府の祈願所とした。

祭神が菅原神 (天神) であること、神松寺が太宰府の祈願所であったことなどからであろうが、太宰府天満宮に参るのと同様の御加護があると云い伝えられている。

平成一三年一二月吉日

老松神社氏子

【参考文献】

片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.33-36



老松神社の社殿（階段上、2013.2.21）

②五穀神

【概要】老松神社の境内、社殿前付近に位置する。『新風土記 かたえ』によると、「もともとは、別の場所に建てられていたものを、1876(明治9)年の明治政府の布告令によって、老松神社の境内に移し変えられたものであろう。創建年は不明である」(片江校区郷土史研究会編 2003:55)とある。

【参考文献】

片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会



五穀神。右の建物が老松神社の社殿、左は老松会館（2013.2.21 撮影）

③猿田彦大神

【概要】老松神社の参道、階段下の鳥居付近に位置する。

『福岡市の庚申塔』によると、材質は花崗岩、法量 88.0×58.0(福岡市教育委員会編 1993:109)

【銘文】〔表〕猿田彦大神

【参考文献】

片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.55

福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 p.49、p.109。該当 NO.195 城



猿田彦大神。右方向に鳥居と参道(2013.2.21撮影)

③石造物

【概要】社殿に向かって左側、五穀神の近くにある。文字はないようである。詳細は不明。



石造物。写真手前が老松神社々殿、右に老松会館（2013.2.21 撮影）

12. 薬師堂

【所在地】城南区神松寺1丁目9

【概要】「おやくしさま」とも言われているという。『新風土記 かたえ』には、「醫徳山神松寺は1868(明治1)年3月から全国的に吹き荒れた、仏道を排せきした廃仏毀釈と、その後の筑前竹槍一揆によって、薬師堂もろとも打ち壊しにあい跡形もなくなった。

その後、現在地に薬師堂が再建され、お祭りが復活した。5月8日をお釈迦様の日として、お花と甘茶をお供えする。昔は甘茶を参拝者にも出していたが、2000(平成12)年に取り止めとなった。

8月9日のお施餓鬼(とむらってくれる人のいない死者への供養)には洗米1合(約150グラム)・2合のご飯・あさがら・こも・お花・そう菰(または雪やなぎ)・野菜・菓子・果物・おりようご(味ご飯)を供え、お坊さんをお迎えして読経がある。

12月22日の冬至には、カボチャをお供えしている。14軒が交代で毎日、お水・ご飯・おかずをお供えしている」(片江校区郷土史研究会編

2003：56）とある。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.56



薬師堂。右の建物は現在納骨堂となっている「医徳院」(2013.2.21 撮影)

13. 「維新最初之小学校地」碑

【所在地】城南区神松寺1丁目9

【概要】「12.薬師堂」の敷地内にある。『新風土記 かたえ』によると、神松寺1丁目9の現在の薬師堂の場所に1872（明治五）年、「早良郡第十四大区第八小学校」が開校した。しかし、翌年の1873

（明治六）年6月21日に筑前竹槍一揆のために打ち壊されたという。碑の銘文により、この碑が立てられたのは筑前竹槍一揆からちょうど58年後の1931（昭和六）年6月21日であることがわかるが、『新風土記 かたえ』ではこの点に対して「68年後に建てられた地元の深い悲しみと怒りを知ることができる」と記している（片江郷土史研究会編2003：60-61）[注：1873年から1931年は58年間の為、68年後は誤りか。]

【碑文等】[表] 維新最初之小学校地

[裏] 昭和六年六月二十一日建設

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.60-61



「維新最初之小学校地」碑 (2013.2.21 撮影)

14. 「区画整理事業完成記念植樹桜十本」標柱(神松寺北公園内)

【所在地】城南区神松寺3丁目14（神松寺北公園内）

【概要】神松寺北公園内のグラウンド西側にある。銘文から1986（昭和六十一年）年当時の土地区画整理事業の完成を記念して植えられた桜の木に由来していると推察できる。

【碑文等】

[表] 区画整理事業完成記念植樹桜十本

[裏] 昭和六十一年三月 片江地区土地区画整理組合



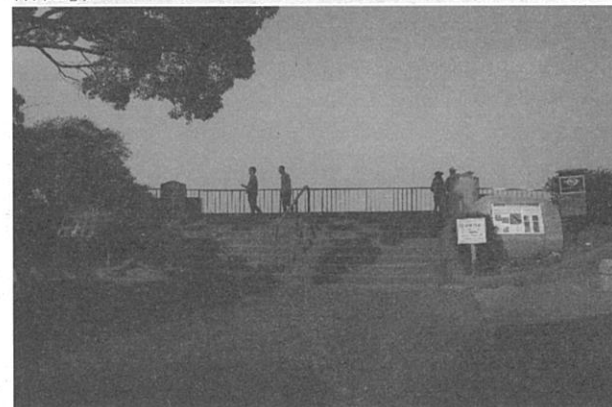
「区画整理事業完成記念植樹桜十本」標柱。神松寺北公園内、すぐ隣に桜の木がある（2013.2.21 撮影）

15. 片江展望台

【所在地】城南区片江（油山観光道路南端）

【概要】油山（標高597m）の中腹に位置する。見晴らしがよく、海ノ中道や志賀島など福岡市内を一望できる。

【敷地内のモニュメント】*1 油山の植物あんない（「(監修・資料提供 油山自然観察センター) 2002年3月 城南区」）、*2 油山の野鳥あんない（「(監修・資料提供 日本野鳥の会福岡支部) 1999年9月 城南区」）、*3 油山のあんない（「城南区」）



片江展望台 (2013.2.22 撮影)